

# 國學院大學學術情報リポジトリ

「省察」の質的な深まりに着目した教員養成課程の  
模擬授業に関する研究(II):  
体育科教育法の授業を対象として

|       |                                                                                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2023-02-06<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 大矢, 隆二, 柳瀬, 慶子<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.57529/00001413">https://doi.org/10.57529/00001413</a>                               |

# 「省察」の質的な深まりに着目した教員養成課程 の模擬授業に関する研究（Ⅱ）

—体育科教育法の授業を対象として—

大矢 隆二      柳瀬 慶子

## 【要旨】

学習論の転換に伴って、教師は「反省的实践家」として求められる中、「省察」の重要性が増している。本研究は、「体育科教育法」の授業で行った模擬授業における学生の省察をもとに、「省察の3次元モデル」に照らした質的分析から省察の質を明らかにし、今後の体育科教育法の授業に必要な学生の学びについての端緒を掴むことを目的とした。その結果、教師の基本的スキルや児童にとって楽しい授業が必要という「技能的省察」が多い一方で、学習目標・学習内容を核とした授業展開や工夫が必要という「実践的省察」が見られた。また、保健分野の特性の見極め、学習観や自己の変容という「批判的省察」も見られた。今後の体育科教育法の授業においては、自身の既存の学習観と学校教育現場で求められる学習観の把握・比較という「批判的省察」が、「技能的省察」や「実践的省察」に見られた課題改善につながり、「学び続ける教師」の育成にもつながると考えられた。

## 【キーワード】

体育科   模擬授業   省察   学び   テキストマイニング

## I. 緒言

変化の激しい社会の中で、学習論の転換とともに、教師の在り方が変化してきている。学習とは、知識・技術の獲得という捉え方から、対象・他者・自己との「意味と人の関係の編み直し」（佐藤，1995）としての認知的・文化的実践として捉える社会構成主義的学習論への転換が、21世紀型の学びとして広がっている。そうした学習論の転換を受けて、教師も教える専門家である「技術的熟達者」から、学びの専門家である「反省的实践家」への転換が期待されている。「反省的实践家」という概念を生み出したドナルド・ショーン（2001，佐藤・秋田訳）の考え方によれば、複雑な状況への対応を迫られる専門家（教師）が、「技術的熟達者」として「技術的実践」を遂行して授業を外側から統制するだけでは、問題の解決にならないという。一方、「反省的实践家」としての「反省的实践」は、佐藤（1996）によれば、具体的な素材を中心に子どもたちや教師が協同して「反省的思考＝探究」（Dewey，1933）を展開する授業であるという。そうした「授業実践の過程を通して、教材やプログラムが再構成され、教師自身の抱えている認識も修正され発展させられる」（佐藤，1996）のである。つまり、「反省的实践」は、学校の慣行や教師の文化に

よって暗黙に規定されているもの等、様々な枠組みを授業実践における「省察」を通して意識化し編み直していることになるのである。ここに「省察」の重要さがあると考えられる。

文部科学省は平成29年に提示した「教職課程コアカリキュラム」の中で、「模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている」（文部科学省，2017）という到達目標を掲げている。これは「省察」にかかわる目標である。大学の教職課程の体育科教育および保健体育科教育の授業においても、多くの模擬授業が行われ、実践的指導力向上のために模擬授業の学びや効果に関する先行研究が数多く発表されている（木原ら，2007・2008・2009・2010；藤田ら，2008・2011・2015；日野ら，2009；岸，2013；上條，2016；田井ら，2018）。これらの研究は、教員養成課程における模擬授業の省察の内容やその変容は語られているが、省察の質自体を問うた研究は見られない。

そこで執筆者らは、授業改善の視点としての学生の省察の質的な深まりに着目した基礎研究を試みた（柳瀬ら，2021）。そこでは、2019年度T大学の「保健体育科教育」（3年次）の授業において模擬授業を実施し、中学校・高等学校の保健体育科教員を目指す学生の模擬授業後の記述をもとに、テキストマイニングを用いて分析を行い、マックス・ヴァン・マーネンの「省察の3次元モデル」に照らして省察の質を見極めた。「省察の3次元モデル」とは、秋田（1996）がマックス・ヴァン・マーネン（Van Manen, 1977・1991）の著作から、省察の捉え方として、3つの次元があることを紹介している。1つ目は「技能的省察」であり、ある目標達成の手段としての効率や有効性を検証するレベルの省察である。「なぜこの学習か」「なぜこの教材か」という「なぜ」は問わないが、「いかにできたか」を問う、外的な客観的基準に基づいた省察である。2つ目は「実践的省察」であり、手段だけではなく目的も検証する。主観的で内的な意味が省察され、個人の文脈が重視される。3つ目は「批判的省察」であり、モラルと倫理的基準を含めた省察である。自分のおかれている文脈やすでに当然とされている実践に対する社会的な制約やそのイデオロギーに気づく省察であり、以前確認していた性質に新たな意味付与を行うレベルの省察である。また、「自明視されている前提や自らの価値観を対象にしたふりかえりに至ることを意味する」（二宮ら，2018）省察である。基礎研究の結果は、対象者が3年次の学生であったが、まだ中学校・高等学校（保健体育科）への教育実習を体験する前であったため、省察の多くは、いかに授業を能率的に進めるかという「技能的省察」に留まっている実態が見えてきた。しかし、模擬授業を経験することで、事前の指導計画と模擬授業の実際とのずれから生徒の実態をよく把握することの重要性に気づく等の「実践的省察」や、自己が暗黙的にもつ発達観に疑問を持って新たな考え方をを見つける「批判的省察」もわずかながら見られた。

本研究では、対象者を替えて、小学校教諭を目指す「体育科教育法」（2年次）の受講生とした。対象者を替えて研究を設定した理由としては、本研究の対象者は、小学校への教育実習（本実習）をまだ体験していないということに関しては基礎研究と同様であるが、2年次に全員が附属小学校への観察実習（計8回）を体験済みという点が異なる。その観察実習では、児童の行動や発言

をどう捉えるかという学びに加えて、中には、実践者として学級活動（朝の会・帰りの会等）の立案や進行をした学生もいる。こうした、学校教育現場で実際に学んだ経験をもつ学生を対象として、その省察を質的に把握することが今回の研究である。即ち、本研究は、基礎研究の対象者とは異なる学びをしている学生を対象として、教員養成課程における今後のよりよい模擬授業実践に役立てるねらいがある。

そこで本研究は、2019年度T大学「体育科教育法」の授業で行った模擬授業における学生の省察をもとに、「省察の3次元モデル」に照らしてテキストマイニングを用いた質的分析を行い、観察実習の経験がある学生の省察の質を明らかにするとともに、今後の体育科教育法の授業において必要な学生の学びについての端緒を掴むことを目的とする。

## Ⅱ. 分析方法

### 1. 分析対象となるデータ

本研究では、保健分野の模擬授業後の学びとして収集した学生の自由記述文をデータとして使用した。自由記述文は、模擬授業後にGoogleフォームへの回答を求め収集した。対象は静岡県T大学において、小学校教員を目指して教職課程の「体育科教育法」を履修している学生（2年次）である。「体育科教育法」の授業は、2クラスに分けて開講しており、2クラス合計の対象者数は、欠席者や未提出者13名を除いた、計126名である。

なお、本研究対象となる模擬授業は、受講生全139名が各自保健分野に関わる指導案を作成し、その中の希望する72名が模擬授業を行った。模擬授業は3教室に分かれて行い、司会進行・全体会報告担当（模擬授業を行わない学生が担当した）、児童役、観察者にそれぞれ分かれて実施した。

### 2. 調査方法

日時：2020年1月7日（火）14：45（国語・数学専攻クラス）

2020年1月9日（木）18：15（社会・音楽・理科専攻クラス）

場所：静岡県T大学

調査対象者：静岡県T大学「体育科教育法」（必修・2年次）履修学生126名

調査内容：「模擬授業（保健分野）において、あなたが学んだことと今後の課題であると感じたことを150字程度で具体的に入力してください」

### 3. 分析方法

収集した自由記述文をもとに、Text Mining Studio6.3（株式会社NTT データ数理システム社製：以下、Text Mining Studio）を用いて分析を実施した。Text Mining Studioは、蓄積されたテキスト（文章）を分析、活用など多くの質的データを処理するために開発されたものである。本研究では、単語頻度解析およびことばネットワークにより分析を試みた。

また、頻度・出現回数の設定は、第一著者（保健体育科教育学）および第二著者（体育科教育学、舞踊教育）で妥当性について2回にわたり検討し、単語頻度解析では頻度15以上を、ことば

ネットワークでは出現回数5以上を分析対象とした。なお、本文中に表で示した各「共起関係の原文（一部抜粋）」については、多くの原文に類似した内容が見られる代表的な原文や、特徴的な内容の原文を抽出した。その妥当性については、第一著者と第二著者で検討を重ねて抽出した。

#### 4. 倫理的配慮

調査対象者に対して、研究概要を書面と口頭で説明し、被験者同意を文書にて得た。その際、研究対象データは今後の「体育科教育法」の授業における教育の在り方を研究する目的のみに使用することを説明した。また、個人を特定するものは一切公開しないこと、調査対象のレポート記述は授業評価とは無関係であること、同意後被験者に不都合が生じた場合はいつでも撤回できることも、あわせて説明を行った。

### Ⅲ. 結果及び考察

#### 1. 結果

学生が回答した模擬授業後の省察に関する自由記述の中で、名詞・形容詞・形容動詞に着目して単語頻度解析を行った。名詞・形容詞・形容動詞に着目した理由は、名詞は「人や物を表す語」、形容詞は「事物の性質・状態・心情等を表現する語」、形容動詞は「事物の性質・状態を表現する語」（新村，2018）であるため、学生の模擬授業における学びの状況が把握しやすく、省察の質を読み取りやすいためである。省察の自由記述に見られた頻度15以上の名詞・形容詞・形容動詞の結果を図1に示した。計15語が抽出され、中でも「模擬授業」が最も頻度が高く頻度73であった。次いで「児童」が頻度59、3番目に「自分」が頻度52、「良い」が頻度43であった。

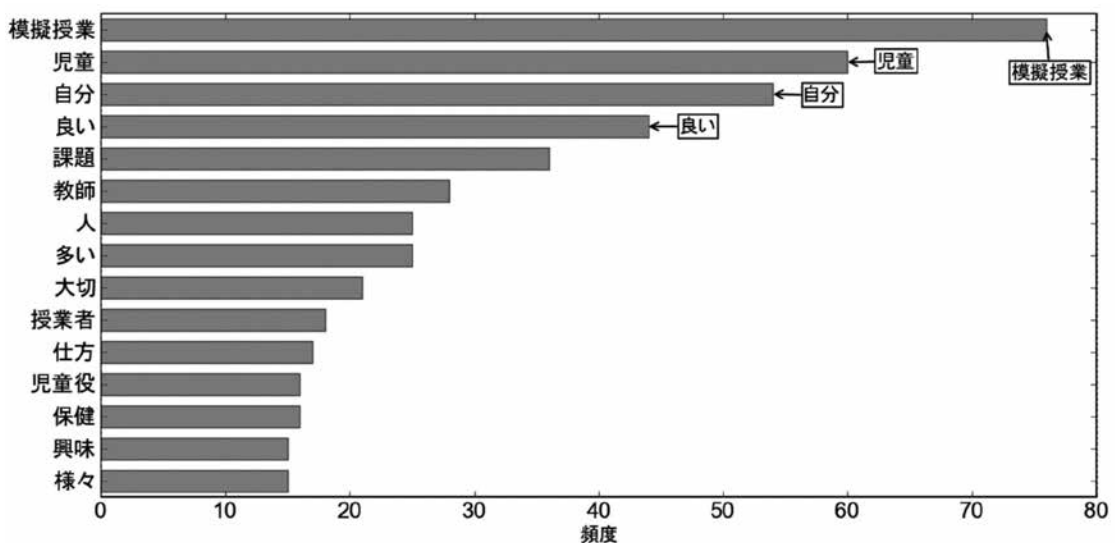


図1 単語頻度解析結果（名詞・形容詞・形容動詞）



図1の名詞・形容詞・形容動詞の中で、本研究は頻度40以上の「模擬授業」「児童」「自分」「良い」の4語に着目し、ことばネットワーク分析を用いて分析を行った（図2）。ことばネットワーク分析の中で、矢印でつながっている言葉は同時に出現（共起）することを意味しており、共起関係と見ることができる。そこで、単語頻度が高い4語と共起関係にある語に着目し、図2で直接つながっている語を取り上げて考察を行った。その際、矢印の向きに関しては問わないこととした。また、より詳細に考察するために、それぞれの語と共起関係にある語が出現する原文データも分析資料として参照した。中には、原文データを参照しても学生の省察内容が詳細に記述されていないものがあり、省察の質を考察できないデータは「読み取り不可」として省くこととした。

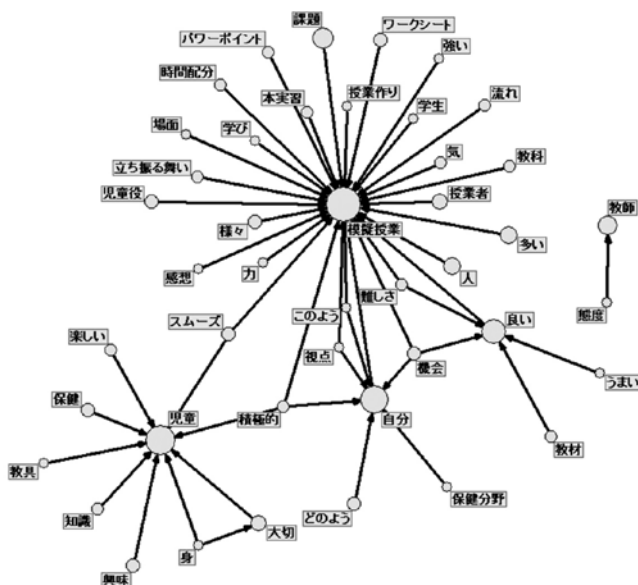


図2 ことばネットワーク分析結果（名詞・形容詞・形容動詞）

### 1.1. 「模擬授業」の共起関係

単語頻度が最も高い「模擬授業」と共起関係がある語を見ると、「自分」「良い」「人」「課題」「気」「多い」「機会」「授業者」「力」「様々」「児童役」「学生」「時間配分」「スムーズ」「ワークシート」「学び」「立ち振る舞い」「パワーポイント」「教科」「積極的」「本実習」「授業作り」「強い」「流れ」「感想」「視点」「場面」「難しさ」「このよう」の計29語があげられた。省察の質は、383件抽出され、その内訳は、「技能的省察」が253件と最も多く、次いで「実践的省察」が59件、「批判的省察」が27件、「読み取り不可」が44件となった（表1）。

共起関係の原文データ表2を見ると、共起関係「模擬授業－人」の原文No.24では、保健という分野は個人差が大きいため個人差に配慮して実践することが必要という、保健分野の特性の捉

え直しとしての「批判的省察」が見られた。共起関係「模擬授業－課題」の原文No.60では、授業者が行う工夫は学習内容から外れずに、学習目標を中心とした展開の重要性を課題として捉えた「実践的省察」が見られた。また、同じく共起関係「模擬授業－課題」の原文No.117では、授業者としての失敗を恐れて、授業者役を回避した自分自身の取り組み姿勢の在り方を問う「批判

表1 「模擬授業」の共起関係に見られる省察の質の内訳（件）

| 共起関係にある語 | 抽出件数 | 技能的省察 | 実践的省察 | 批判的省察 | 読み取り不可 |
|----------|------|-------|-------|-------|--------|
| 自分       | 45   | 26    | 5     | 3     | 11     |
| 良い       | 34   | 19    | 5     | 3     | 7      |
| 人        | 32   | 23    | 1     | 5     | 3      |
| 課題       | 31   | 20    | 7     | 3     | 1      |
| 気        | 22   | 9     | 10    | 1     | 2      |
| 多い       | 15   | 11    | 1     | 1     | 2      |
| 機会       | 15   | 8     | 1     | 3     | 3      |
| 授業者      | 15   | 11    | 3     | 0     | 1      |
| 力        | 14   | 13    | 0     | 1     | 0      |
| 様々       | 13   | 12    | 0     | 0     | 1      |
| 児童役      | 13   | 10    | 2     | 1     | 0      |
| 学生       | 13   | 7     | 1     | 0     | 5      |
| 時間配分     | 11   | 8     | 3     | 0     | 0      |
| スムーズ     | 11   | 10    | 1     | 0     | 0      |
| ワークシート   | 10   | 9     | 1     | 0     | 0      |
| 学び       | 10   | 8     | 2     | 0     | 0      |
| 立ち振る舞い   | 8    | 7     | 0     | 1     | 0      |
| パワーポイント  | 8    | 6     | 0     | 2     | 0      |
| 教科       | 7    | 2     | 2     | 1     | 2      |
| 積極的      | 7    | 3     | 3     | 0     | 1      |
| 本実習      | 7    | 5     | 1     | 1     | 0      |
| 授業作り     | 6    | 2     | 2     | 0     | 2      |
| 強い       | 6    | 2     | 2     | 1     | 1      |
| 流れ       | 6    | 6     | 0     | 0     | 0      |
| 感想       | 5    | 3     | 1     | 0     | 1      |
| 視点       | 5    | 2     | 3     | 0     | 0      |
| 場面       | 5    | 5     | 0     | 0     | 0      |
| 難しさ      | 5    | 4     | 1     | 0     | 0      |
| このよう     | 4    | 2     | 1     | 0     | 1      |
| 合計       | 383  | 253   | 59    | 27    | 44     |

的省察」が見られた。共起関係「模擬授業－児童役」の原文No.125では、授業者の支援の仕方によって児童の楽しさが左右され、一斉授業や放任授業は飽きるという、学習内容との関連が見られない教師の指導・支援についての「技能的省察」が見られた。共起関係「模擬授業－立ち振る舞い」の原文No.107では、教師の立ち振る舞いや授業準備によって、クラス全体の学習内容の理解度が変わるという、学びは教師の在り方によって成立するということを捉えた「批判的省察」が見られた。

表2 「模擬授業」の共起関係の原文（一部抜粋）

| 原文No.  | 共起関係にある語 | 「模擬授業」の共起関係の原文                                                                                                                                                                                                                           | 省察の質  |
|--------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| No.24  | 人        | 模擬授業をした身としては、児童の立場になって授業準備をすることが大切だと思いました。児童の立場といってもいろんな児童が集まって授業は作られていくので、もちろん全ての児童の行動を予測するのは難しいのですがなるべく具体的にデモンストレーションしてみるのが良いと感じます。特に児童には <b>個人差があることを意識できなかったのは反省点</b> です。保健は <b>個人差</b> に配慮すべき教科（＊原文まま）だと思います。                       | 批判的省察 |
| No.60  | 課題       | 模擬授業を観察して、私は思いついたことを積極的に試してみることが大切だと学びました。多くの学生の <b>模擬授業</b> でそれぞれが個性溢れる活動を組み入れていました。 <b>模擬授業という場面だからこそ</b> 、いろいろと試すことができると感じました。次回からは模擬授業の授業者として参加し、いろいろ試したいです。また、授業の目標から外れずに指導案や授業を行うことが <b>課題</b> です。本質を見失わずに取り組むことを意識していきたいです。       | 実践的省察 |
| No.117 | 課題       | 授業の進め方や教師の立ち振る舞い等を教師役の人たちから学んだ。また、教師役の人が学習する学年に合わせた話し方をしており、学年に対応した行動をしなければいけないということも学んだ。 <b>課題は、模擬授業をやらなかったこと</b> である。失敗をしたくなくて、教育実習のときにやればいいのかという思いを抱いてしまい、やらなかったので、次の機会では、やりたい。                                                       | 批判的省察 |
| No.125 | 児童役      | <b>模擬授業を児童役として</b> 受けて感じたことは、授業中に机間巡視をして活動を潤滑に行えるようなアドバイスやコメント、ミニ評価をすること、また、児童との実演などをして授業者と児童の距離を詰めている授業者の <b>模擬授業は受けていて楽しく学ぶことができるのだと学んだ</b> 。授業者が一方向的に話している授業、 <b>児童役に活動ばかりをさせていて授業者は机間巡視をしているだけのような授業では飽きてしまうということに気づくことができた</b> 。    | 技能的省察 |
| No.107 | 立ち振る舞い   | ただ座学をひたすらに展開し続けるのではなく、展開部分のところに、児童に体験させる活動を取り入れることによって、身をもって『大切であること』が実感できるのだと感じる。ICTを積極的に活用することによって、交通事故の様子、病気の進行、心の発達の様子をリアルに目に焼き付けておくことができる。そして何より、教師の <b>立ち振る舞いや</b> 、表情、どれだけ準備したかによって、クラスの雰囲気が変わってくるのを実際に <b>模擬授業を</b> やってみて強く実感した。 | 批判的省察 |

（以下、原文378件）



## 1.2. 「児童」の共起関係

2 番目に単語頻度が高い「児童」と共起関係にある語は、「大切」「興味」「保健」「楽しい」「スムーズ」「身」「積極的」「知識」「教具」の計 9 語があげられた。省察の質は全105件が抽出され、その内訳は、「技能的省察」が67件と最も多く、次いで「実践的省察」が30件、「批判的省察」が2件、「読み取り不可」が6件となった（表3）。

表3 「児童」の共起関係に見られる省察の質の内訳（件）

| 共起関係にある語 | 抽出件数 | 技能的省察 | 実践的省察 | 批判的省察 | 読み取り不可 |
|----------|------|-------|-------|-------|--------|
| 大切       | 20   | 15    | 5     | 0     | 0      |
| 興味       | 17   | 15    | 2     | 0     | 0      |
| 保健       | 16   | 8     | 5     | 1     | 2      |
| 楽しい      | 12   | 5     | 7     | 0     | 0      |
| スムーズ     | 10   | 6     | 2     | 0     | 2      |
| 身        | 9    | 4     | 4     | 0     | 1      |
| 積極的      | 8    | 4     | 3     | 0     | 1      |
| 知識       | 7    | 4     | 2     | 1     | 0      |
| 教具       | 6    | 6     | 0     | 0     | 0      |
| 合計       | 105  | 67    | 30    | 2     | 6      |

共起関係の原文データ表4を見ると、共起関係「児童－興味」の原文No.122では、いかに児童を授業に引き付けるかという観点で、児童の興味を引く学習教材や学習形態が必要であるという「技能的省察」が見られた。これは、他の「児童－興味」や「児童－教具」、「児童－楽しい」の原文の中にも同じような省察が見られた。共起関係「児童－楽しい」の原文No.93では、上記の原文No.122とは反対に、ただ楽しいだけではなく、学習内容のねらいに沿って探究する楽しさを味わわせるためには、教師がもっと取り扱う内容の知識を得ておく必要があるという「実践的省察」が見られた。共起関係「児童－スムーズ」の原文No.35では、事前準備として、児童の意見の予想や各活動の時間設定等が授業のスムーズな進行につながるという「技能的省察」が見られた。共起関係「児童－知識」の原文No.36では、パワーポイントは分かりやすく表示できるが、事前に教師が決めた流れに沿って作成してあるために、児童の意見を書き込んだり取り入れたりしにくいということを感じていた。パワーポイントの使用の概念を捉え直す「批判的省察」が見られた。

表4 「児童」共起関係の原文（一部抜粋）

| 原文No.  | 共起関係にある語 | 「児童」の共起関係の原文                                                                                                                                                                                                                 | 省察の質  |
|--------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| No.122 | 興味       | 授業に対する <b>児童の興味</b> ・関心をどのように引き付けていくかという点が大切であるということを学修した。保健の授業は座学なので、児童が退屈しないように、教材の工夫や活動内容の多様化（個人、小グループ、クラス）など、自分のイメージする授業に合わせて色々な形態で授業を行うといいと感じた。                                                                         | 技能的省察 |
| No.93  | 楽しい      | 私も「 <b>楽しい授業</b> 」というのを目標に授業を行っていたが、 <b>楽しいだけになってしまい</b> 本当の趣旨を <b>児童に</b> 伝えられなかった気がする。「 <b>楽しい授業</b> 」にするためにはもっと自分の知識が必要であると感じた。                                                                                           | 実践的省察 |
| No.35  | スムーズ     | 模擬授業に授業者、 <b>児童役</b> の両方の立場で参加したが、どちらの立場から考えても、模擬授業を行ったことで、「準備」の重要さを感じた。 <b>児童から</b> どのような反応が返ってくるのか、それぞれの活動に対してどれだけの時間が必要なのか、そういった自分の作った流れに対する見通しをしっかりと持つことで、より <b>スムーズ</b> に授業が進められると感じた。                                  | 技能的省察 |
| No.36  | 知識       | 今回、パワーポイントを使った人と、板書をした人がいた。その中で、 <b>知識については</b> パワーポイントは、有効的ではあるが <b>児童の意見</b> が反映されないという欠点が見えた。板書だと、字が汚いと読めない、書くペースについての欠点がある反面、 <b>児童の意見</b> が取り入れられやすいことが見えてきた。そのため、両方を駆使するか、板書の場合は練習して読みやすい字にしたり、早く書けるようにしたりと努力が必要だと感じた。 | 批判的省察 |

（以下、原文101件）

### 1.3. 「自分」の共起関係

3番目に単語頻度が高い「自分」と共起関係にある語は、「模擬授業」「機会」「どのよう」「積極的」「視点」「保健分野」「このように」の計7語があげられた。省察の質は全90件が抽出され、その内訳は、「技能的省察」が47件と最も多く、次いで「実践的省察」が22件、「批判的省察」が4件、「読み取り不可」が17件となった（表5）。

表5 「自分」の共起関係に見られる省察の質の内訳（件）

| 共起関係にある語 | 抽出件数 | 技能的省察 | 実践的省察 | 批判的省察 | 読み取り不可 |
|----------|------|-------|-------|-------|--------|
| 模擬授業     | 49   | 26    | 7     | 3     | 13     |
| 機会       | 12   | 7     | 1     | 1     | 3      |
| どのよう     | 9    | 4     | 5     | 0     | 0      |
| 積極的      | 6    | 5     | 1     | 0     | 0      |
| 視点       | 5    | 2     | 3     | 0     | 0      |
| 保健分野     | 5    | 1     | 4     | 0     | 0      |
| このように    | 4    | 2     | 1     | 0     | 1      |
| 合計       | 90   | 47    | 22    | 4     | 17     |

共起関係の原文データ表6を見ると、共起関係「自分－模擬授業」の原文No.55では、教師の話し方等のスキルに関する「技能的省察」が多く見られた。その他の「自分－模擬授業」の原文では、児童の実態にあった授業の必要性等の「実践的省察」も見られた。共起関係「自分－機会」の原文No.87では、児童役の学生の意見や他の授業者役の学生の授業構成から、今までの自分の考えに留まらず拡張する必要があるという「批判的省察」が見られた。共起関係「自分－どのよう」の原文No.111では、板書の仕方や資料の提示の仕方等をどのようにすれば良いかといった「技能的省察」に留まっていた。他の「自分－どのよう」の原文では、同じような「技能的省察」が見られる一方、「どのような内容をどのように行うか」や「どのように（児童が）気づけていけば良いか」といった、学習方法に留まらない学習内容にも言及した「実践的省察」が見られた。共起関係「自分－保健分野」の原文No.32では、保健分野の学習内容の特性をしっかりと捉えて、その上で、学習内容を中心とした学びが授業においてぶれないような、板書等の工夫や発問・指示を行っていく必要があるという「実践的省察」が見られた。その他「自分－視点」の共起関係では、児童の視点で授業を考えることが重要であるという「実践的省察」が見られた。

表6 「自分」共起関係の原文（一部抜粋）

| 原文No.  | 共起関係にある語 | 「自分」の共起関係の原文                                                                                                                                                                                              | 省察の質  |
|--------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| No.55  | 模擬授業     | この <b>模擬授業</b> において学んだことは教師としての立ち振る舞いや児童理解の大切さである。教師としての立ち振る舞いに関しては、どのようなタイミングでどんな言葉を言うことや児童に対する話し方、接し方、板書の丁寧さなど、教師として持っているべきスキルのことである。まだまだ <b>自分</b> には足りないスキルなのでもっと力をつけたいと思った。                          | 技能的省察 |
| No.87  | 機会       | 模擬授業を見ていると、児童の視点ならではの気づきや、意外性のある授業展開に出会うことができ、他者の考えに触れて <b>自分の</b> 力を伸ばすよい <b>機会</b> と <b>なった</b> 。 <b>自分</b> だけの限界（視野の狭さ）を感じた。                                                                           | 批判的省察 |
| No.111 | どのよう     | 模擬授業を見ていると <b>自分</b> と同じ単元でも <b>自分</b> が考えた指導案とは違う視点で授業を展開していたり、工夫した活動を取り入れたり、教科横断型授業を試みたりと学ぶことが多かった。また、板書を児童目線で見ると <b>どのような</b> 板書の仕方が見やすいのか、掲示物の見せ方はどうすればよいのかなども少しながら気づけたと思う。                           | 技能的省察 |
| No.32  | 保健分野     | <b>保健分野</b> はどの単元も <b>自分</b> に関わる単元であり、その言葉にあるように健康を保つためにどのようなことに気をつけていけば良いかを学ぶ分野である。教師側として子供たちがより積極的に授業に参加する工夫であったり、子供たちが勘違いしてしまわないような教え方をしたりすることが大事だと思う。そのため、ただ教えるだけではなく事前にたくさんのことを考えたり準備しなければならないと思った。 | 実践的省察 |

（以下、原文86件）

#### 1.4. 「良い」の共起関係

4番目に単語頻度が高い「良い」と共起関係にある語は、「模擬授業」「機会」「教材」「うまい」

「難しさ」の計5語があげられた。それぞれの省察の質は、全74件が抽出され、その内訳は、「技能的省察」が38件と最も多く、次いで「実践的省察」が15件、「批判的省察」が11件、「読み取り不可」が10件となった（表7）。

表7 「良い」の共起関係に見られる省察の質の内訳（件）

| 共起関係にある語 | 抽出件数 | 技能的省察 | 実践的省察 | 批判的省察 | 読み取り不可 |
|----------|------|-------|-------|-------|--------|
| 模擬授業     | 40   | 22    | 6     | 5     | 7      |
| 機会       | 13   | 6     | 0     | 4     | 3      |
| 教材       | 11   | 6     | 4     | 1     | 0      |
| うまい      | 5    | 1     | 3     | 1     | 0      |
| 難しさ      | 5    | 3     | 2     | 0     | 0      |
| 合計       | 74   | 38    | 15    | 11    | 10     |

共起関係の原文データ表8を見ると、共起関係「良い－模擬授業」の原文No.25では、時間設定や板書等の経験をして良かったという「技能的省察」が見られた。同じく共起関係「良い－模擬授業」の原文No.118では、共起関係「模擬授業－課題」の原文No.117と同様に、自分の人前で話すという苦手意識を振り返り、模擬授業に取り組んだ方が良かったという自己の認識を変える「批判的省察」が見られた。共起関係「良い－うまい」の原文No.124では、保健分野の特性であるデリケートな学習内容を、配慮しつつも、児童にしっかり理解をさせるという「実践的省察」が見られた。

表8 「良い」共起関係の原文（一部抜粋）

| 原文No.  | 共起関係にある語 | 「良い」の共起関係の原文                                                                                                                                                                                                | 省察の質  |
|--------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| No.25  | 模擬授業     | 今回は <b>模擬授業</b> を実際にやってみて、「やってみないと分からない」ことがたくさん見えてきました。特に、「時間の管理」「板書」については、シミュレーションだけでは見えないことが多いので、やって <b>良かった</b> というのが正直な感想です。                                                                            | 技能的省察 |
| No.118 | 模擬授業     | <b>模擬授業</b> を受けて、教師としてハキハキとすること、伝えたいことは簡潔にわかりやすくということを学んだ。あまり前に立って授業をする機会がない中で、授業者はとても <b>良く</b> 授業ができていたと思った。自分も <b>模擬授業</b> をやれば <b>良かった</b> と後悔した。私は人前で話すことが苦手なので、話すことに慣れていくことが課題だと思うのでいろんな機会を逃さずがんばりたい。 | 批判的省察 |
| No.124 | うまい      | 11名の <b>模擬授業</b> を受け、最も大切なことは、堂々とハキハキと児童に伝えようとするのだと思いました。また、保健分野は非常にデリケートな話題を扱うので、児童への配慮が必要だと感じました。自分の悩みに関してや、性に関しても、 <b>うまく</b> 付き合っていくためにはどうしたら <b>よいか</b> を伝えられると <b>良い</b> のではないかと思います。                 | 実践的省察 |

（以下、原文71件）

## 2. 考察

模擬授業後の学生の省察を見ると、「技能的省察」が一番多く見られ、次いで「実践的省察」、「批判的省察」の順という結果が得られた。「技能的省察」については、第1に、教師のスキル（立ち振る舞い・板書・資料提示等）や、授業準備（児童の意見の想定・時間設定等）の重要性があげられた。これらは、教師が授業実践を行う上で必須であり、教師の基本的なスキルとしての習得が期待される内容である。第2には、児童が楽しさを感じる授業の大切さが数多くあげられた。そのためには学習教材や学習形態の工夫、教師の支援をどうするかという記述があった。こうした省察は、保健分野の学習目標や学習内容との関連が見られず、単に児童を飽きさせずにどう授業に集中させるか、そのために目先の工夫をどう講じるかという内容に留まっていた。

一方「実践的考察」については、ただ楽しいだけの授業ではいけないということに気づいている省察が見られた。そのためには学習目標や学習内容を授業の核に据えて、そこへ向けての教材や授業展開の工夫が必要であると考えていた。さらに、そうした授業実践を展開するためには、教師が知識をしっかりと習得しておくことの必要性もあげられた。つまり、授業で取り扱う内容について教師の知識習得は必須であり、そこから学習内容について探究していく学びは、「探究する楽しさ」を児童に味わわせることにつながり、そうした「楽しさ」が学びには必要であると考えられる。

「批判的省察」については、第1には、保健分野の特性（個人差・デリケートな話題）をしっかりと捉え、保健の学びとは何なのかという根本的な問いをベースとしながら、保健分野の特性にあった指導の必要性を見出していた。第2に、パワーポイントの使用に関して、児童にとって知識獲得型の学習ではパワーポイントは有効であるが、対話型の学びでは必ずしも有効ではないということを見出した。これは、パワーポイントという学習に使用する機材の話に留まらず、知識獲得型学習観からの脱却と、対話型学習観の発見について語られていると考えられる。第3に、他者の授業に影響を受けて、人前で話す苦手意識等から授業者として実践を行わなかった学生が授業実践へ意欲をもったり、自分だけの考えに固執せずに考え方を拡張したりする記述が見られた。これらは、学習前と学習後の自分を比較し、その自己変容を捉えたものである。こうした自己変容は、新しい自己の発見であり、学生の学びの証であるとともに、「学び続ける教師」につながる姿であると考えられる。

## IV. まとめ

本研究は、「体育科教育法」の授業で行った模擬授業における学生の省察の質を明らかにするとともに、今後の体育科教育法の授業において必要な学生の学びについての端緒を掴むことを目的としてきた。

学生の省察の質については、教師の基本的なスキルや児童を飽きさせないための楽しい授業といった「技能的省察」に多くが留まっていた。その一方で、学習目標や学習内容を核とした授業



展開や工夫の必要性といった「実践的省察」が見られた。また、今回の模擬授業を通して、保健分野の特性の見極め、学習観の変容、自己の変容という「批判的省察」も見られた。

今後の体育科教育法の授業においては、自身がもつ既存の学習観と学校教育現場で求められている学習観を把握して比較するという「批判的省察」を行うことが、「実践的省察」の中で見られた学習内容の特性を見極めてその特性を核に据えた授業展開の考案・実践につながると考えられる。また、そうした学びを通して、「技能的省察」の中に多く見られた教師に必要な基本的スキルの習得や、「批判的省察」に見られた学習後の新しい自己の生成、即ち「学び続ける教師」の育成にもつながると考えられる。

今回は、筆者らが執筆した基礎研究の論文と本研究の結果を比較し、教育実習経験の違いが省察の質に与える影響については考察を試みていないため、今後の研究課題としたい。

#### <引用・参考文献>

- 秋田喜代美（1996）「教師教育における『省察』概念の展開－反省的实践家を育てる教師教育をめぐる－」『教育学年報5 教育と市場』森田尚人・藤田英典・佐藤学他編 世織書房 pp.451-467.
- Dewey, J. (1933) 『How we think: A restatement of the relation of reflective thinking to the educative process』 New York: D. C. Heath & Co.
- ドナルド・ショーン（2001）：佐藤学・秋田喜代美訳『専門家の知恵 反省的实践家は行為しながら考える』ゆみ出版.
- 藤田育郎・細越淳二（2008）「体育科模擬授業における学習成果の検討」『国士舘大学体育研究所報（27）』79-85.
- 藤田育郎・岡出美則・長谷川悦示・三木ひろみ（2011）「教員養成課程の体育科模擬授業における教師役経験の意義についての検討－授業の『省察』に着目して－」『体育科教育学研究』27（1），19-30.
- 藤田育郎（2015）「大学における模擬授業の手法とその成果」『新版体育科教育学の現在』岡出美則他編 創文企画 pp.210-223.
- 日野克博・谷本雄一（2009）「大学の模擬授業並びに教育実習における省察の構造」『愛媛大学教育学部保健体育紀要』第6号 41-47.
- 上條真紀夫（2016）「大学生の模擬授業による『実践的指導力』習得に関する研究－小学校体育授業づくりの意識形成を通して－」『淑徳大学研究紀要.総合福祉学部・コミュニティ政策学部』第50号 65-80.
- 木原成一郎・村井潤・坂田行平・松田泰定（2007）「教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第一部 第56号 85-91.
- 木原成一郎・日野克博・米村耕平・徳永隆治・松田恵示・岩田昌太郎（2008）「教員養成段階で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究－テスト映像を視聴した学生が気づいた体育授業の要素－」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第一部 第57号 69-76.
- 木原成一郎・村井潤・加登本仁・謝娟・松下篤・林楠・松田泰定（2009）「教員養成段階で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究（その2）－テスト映像を視聴した学生が気づいた体育授業の要素－」『学校教育

実践学研究』第15巻 29-37.

木原成一郎（2010）「模擬授業の意義と方法」『教師として育つ 体育授業の実践的指導力を育むには』梅野圭史  
他編 明和出版 pp.40-42.

岸一弘（2013）「小学校教員養成課程の体育科目における模擬授業の検討－受講生の『授業省察力』の変容に関  
して－」『共愛学園前橋国際大学論集』第13号 39-49.

文部科学省（2017）「教職課程コアカリキュラム」教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会 pp.1-4,  
pp.5-6.

二宮衆一・小谷祐二郎・中山和幸・中西大・久保文人・西原有香莉（2018）「省察を促す授業研究のあり方につ  
いての実践的研究」『和歌山大学教職大学院紀要：学校教育実践研究』第3巻 81-89.

佐藤学（1995）「学びの対話的实践へ」『学びへの誘い』佐伯胖・藤田英典・佐藤学編 東京大学出版会 pp.49-91.

佐藤学（1996）「V授業と学習＝意味と関係の再構築へ」『教育方法学』岩波書店 pp.63-79.

新村出 編（2018）『広辞苑』第七版 岩波書店 p.907, p.2874.

田井健太郎・河合史菜・元嶋菜美香・久保田もか・高橋浩二・宮良俊行（2018）「教員養成課程における模擬授  
業の省察に関する研究」『長崎国際大学論叢』第18巻 31-46.

Van Manen, M. (1977)「Liking way of knowing with ways of being practical」『Curriculum Inquiry』Vol.6 (3) :  
205-228.

Van Manen, M. (1991)「Reflectivity and the pedagogical moment:The normativity of pedagogical thinking  
and acting」『Journal of Curriculum Studies』Vol.23 (6) : 507-536.

柳瀬慶子・大矢隆二・木宮敬信・黒岩一雄・村本宗太郎（2021）「『省察』の質的な深まりに着目した教員養成課  
程の模擬授業に関する研究（Ⅰ）－保健体育科教育の授業を対象として－」『常葉大学教育学部紀要』第41  
号 印刷中.

（おおやりゅうじ 國學院大學人間開発学部健康体育学科教授）

（やなせけいこ 常葉大学教育学部生涯学習学科講師）